

2006年3月政治情勢

2006年4月作成
在アルゼンチン大使館

1. 概要

キルチネル大統領は、通常議会の開会式において、一般教書演説を行い、これまでの亜の経済成長等を賞賛した他、ウルグアイとの間で外交問題化している製紙工場建設問題に関して、90日間、同建設を中断するようウルグアイ側に求めた。また、1976年の軍事クーデターから30年目にあたる3月24日、ブエノスアイレス市をはじめとする各地で30周年関連行事が行われ、キルチネル大統領は、二度とクーデターや国家テロを起してはならない旨述べた。その他、ブエノスアイレス市長の更迭、サンタクルス州知事の辞任等が関心を集めた。

外交面では、ウルグアイにおける製紙工場建設問題に関して、亜の市民団体による国境の橋梁封鎖解除や建設会社による工事中断発表等一定の進展が見られた。また、キルチネル大統領がバチェレ・チリ大統領就任式に出席するためチリを訪問した他、バチェレ大統領、パロウベク・チェコ首相、ベアトリックス・オランダ女王、プレヴァル・ハイチ次期大統領、潘基文・韓国外交通商部長官、ウマラ・ペルー大統領候補が訪亜した。

2. 内政

(1) キルチネル大統領の一般教書演説

(イ) 1日、キルチネル大統領は、第124回通常議会の開会式において、上下両院議長及び議員、全閣僚、多数の州知事、当地駐在各国大使等が列席する中、約2時間に亘り一般教書演説を行った。

(ロ) 主な演説内容は以下の通り。

(i) 経済

・「亜の対外債務問題に対する戦略的解決を成し遂げた年として、2005年は記憶に残る年になるだろう」。

・「亜経済は、37ヶ月間、持続的な経済成長を遂げ、GDPは、最悪期より36%改善した。これは、過去100年の亜経済の歴史の中で初めてのことである」。

・「2002年5月の失業率は23.3%であったが、2005年第4四半期には、10.1%になり、2006年は、一桁になることを期待している」。

・「安定した見通しを行えるようにするため、物価上昇のプロパガンダが現れないようにするために、価格合意を強力に推進してきた」。

・「過去約50年間、金融面で依存してきたIMFに対して、約100億ドルの対外債務の前倒し完済という歴史的決定を行った」。

(ii) 内政

・「司法審議会改革は、同審議会の透明性、効率性及び機動性を高めるものである。誰が現在の同審議会にこのような性質が備わっていると言えるのか」。

・「自分の任期は、2007年12月10日に満了するため、議会において演説するのは残り1回となるが、もし許されるなら、この議会から、軍政期における行方不明者約3万人に対する敬意を表したい」。

(iii) 外交

・「友人であるバスケス・ウルグアイ大統領に対して、ウルグアイにおける製紙工場建設が環境に与える影響を調査するために、90日間、同建設を中断するよう求める」。

・「我々は、ウルグアイ国民同様、(全てが) 上手くいくことを望んでおり、ラ米の統合ではなく分断させる中身の無いナショナリズムは推進しない」。

・「最近合意した伯との競争適合メカニズム(MAC)は、健全な生産統合、公平な拡大、地域貿易のダイナミズムに繋がるものである」。

・「亜は、国際舞台において、民主主義、人権及び国際安全保障の価値に基づいた、より安全で安定した公平な世界を創るよう努めながら、一連の行動を行ってきた」。

・「2005年にマルデルプラタ市で開催された第4回米州サミットでは、雇用に対する尊厳の重要性について、強いコンセンサスが得られた」。

・「亜の国連安保理への参加は、集団的安全保障メカニズム及びマルチラテラリズムを強化し、紛争の予防及び解決に向けた実効的な外交を支持することを目的としている」(注：亜は、現在、安保理非常任理事国(任期：2005-2006年))。

・「我々は、マルチ及び地域の場において、平和目的で核及び衛星分野で協力し、核兵器不拡散分野で積極的な活動を継続する」。

・「我々は、マルビーナス諸島の領有権を粘り強く主張する」。

(iv) その他

・「亜は、五月革命200年目にあたる2010年までに非識字者を無くしたいと考えている」。

・「今後5年間で、GDPの6%を教育部門に投資することを目指す」。

(2) 軍事クーデター30周年関連行事

(イ) 24日、1976年3月24日に起こった軍事クーデターから30年目を迎え、キルチネル大統領が主催する30周年関連行事の他、全国各地で同様の行事が行われた。

(ロ) 24日午前、陸軍士官学校において、軍事クーデター30周年記念行事が行われ、キルチネル大統領、閣僚、州知事、軍幹部、労組、五月広場の母達を含む人権団体代表、当地駐在の各国大使等が出席した。

同行事におけるキルチネル大統領の演説の主なポイントは以下の通り。

・軍事クーデターは、軍だけによって演じられた現象ではない。マスコミ、教会、政治家にも、憲法秩序を破壊させた一部の責任がある。

・独裁の行為は、1976年3月24日以前に国家安全保障ドクトリンの名の下で計画された犯罪的計画に関わるものである。

・軍政期（1976－1983年）に導入された経済・社会モデルは、マルチネス・デ・オス（元経済相）という名の頭脳を有していた。我々は、このことを決して記憶から消し去るべきではない。この経済・社会モデルは、残念ながら軍政で終わることなく、90年代終わりまで残った。しかし、この新しいモデルの真の責任者は何ら制裁を受けていない。

・（1989年及び1990年に当時のメネム大統領が軍政期に人権侵害等に関わった軍幹部を恩赦するために発出した）恩赦の大統領令を、他の大統領令によって無効にするようなことは誰も要請できず、司法権がその違憲性を判断すべきである。

・二度とクーデターや国家テロを起してはならない。我々は、永遠に、憎悪及び復讐無しに憲法、真実及び正義を尊重する。

（ハ）その他、同日、極左過激派グループ・ケブラッチョ等は、軍事政権において経済相を務めたマルチネス・デ・オスが住むビル（ブエノスアイレス市レティーロ駅近く）に向かって投石を行った他、同元経済相の形をした人形を燃やす等の過激な行為を行い、警官4名が負傷した。

（ニ）なお、同日は、軍事政権の悲惨さを国民が忘れないようにするために、本年より祝日「真実と正義の記念日」となっている。

（3）ブエノスアイレス市長の更迭

（イ）7日、15名の市議会議員から成る市議会弾劾委員会は、2004年末にブエノスアイレス市において194名の死亡者を出したディスコ火災事件の責任を巡り、イバラ市長の更迭を決定した（賛成：10、反対：4、棄権：1）。なお、ブエノスアイレス市長が市議会の弾劾審議で更迭されるのは初めてのことである。

（ロ）但し、同委員会は、野党側が求めていたイバラ市長の今後10年間の公職就任禁止は認めなかった。

（ハ）今後、テレルマン副市長が、イバラ前市長の残りの任期（2007年12月10日まで）の間市長を務めることになり、13日、正式に市長に就任した。

（4）サンタクルス州知事の辞任

（イ）15日夕、アセベド・サンタクルス州知事は、議会に対して辞表を提出した。具体的な理由は明らかではないが、同州の公共事業運営等に関する中央政府の介入により、アセベド知事が自由に同州の行政をコントロールできなくなっていたと言われており、右が今回の辞任に影響したと見られている。

（ロ）16日、州議会（一院制）は、アセベド知事の辞表を正式に受理した。

（ハ）17日、同辞任を受けて、サンチョ同州副知事が正式に同州知事に就任した。

(5) アルゼンチン航空のスト

(イ) 9日正午、アルゼンチン航空のパイロット及び整備士労組が、24時間の賃上げストを開始した。同労組は、昨年12月2日、9日間継続したストを90日間解除し、経営側と賃上げ交渉を行う旨合意していた経緯があるが、経営側との賃上げ合意には至らなかった。

(ロ) 10日正午、アルゼンチン航空のパイロット及び整備士労組が、前日からの24時間ストを解除した。但し、同スト解除後もチェックイン手続及び搭乗手続に大幅な遅れが出た。

3. 外交

(1) チリ

(イ) バチェレ・チリ大統領就任式

(i) 10-11日、キルチネル大統領はバチェレ・チリ新大統領就任式に出席するため、チリを訪問した(クリスティーナ大統領夫人(上院議員)、アルベルト・フェルナンデス首相、タイアナ外相等同行)。

(ii) 10日、キルチネル大統領は、ラゴス大統領主催の晩餐会に出席した他、11日、キルチネル大統領は、クリスティーナ夫人と共に、バルパライソに移動し、バチェレ新大統領の就任式に出席した後、ビーニャデルマルでのバチェレ大統領主催午餐会に出席した。

(ロ) バチェレ大統領の訪亜

(i) 21-22日、バチェレ・チリ大統領は、国賓として亜を訪問した。同亜訪問は、バチェレ大統領の就任後初めての外国訪問である。

(ii) 21日、キルチネル大統領及びバチェレ大統領は、大統領府において約1時間半に亘って会談し、共同宣言に署名した。両国間で懸案となっている亜のチリへのガス供給問題について、同共同宣言において、両大統領は、国家政策として両国のエネルギー統合プロセスを継続し、両国間で設置されたアドホックのエネルギー問題ワーキング・グループで引き続き解決を図っていくことで合意した。なお、会談後に行われた記者会見において、バチェレ大統領は、「チリは、チリの消費者がガス不足にならないように亜からガスの供給を受けることになるだろう」と述べるにとどまった。

共同宣言では、上記の他に、ハイレベルでの政策対話・協力メカニズムの活性化、両国の軍関係での協力、両国の企業関係者による常設委員会の設置、両国を結ぶ鉄道、トンネル建設、道路建設等のインフラ整備等に関する合意がなされた。

(iii) 21日夜、バチェレ大統領は、キルチネル大統領主催の晩餐会に出席した。両首脳は、改めて亜チリ間の友好関係を確認し、キルチネル大統領は、「バチェレ大統領は、国家元首であるとともに、親愛なる友人であり、人権及び社会正義のために闘う女性として高く評価する」と述べた。

(iv) 22日、バチェレ大統領は、キルチネル大統領と共に、ブエノスアイレス州にある

幼稚園等の地域コミュニティー施設を視察した他、議会での演説、最高裁訪問を行った。

(2) ウルグアイ

(イ) 11日朝、キルチネル大統領は、バチェレ・チリ大統領就任式に出席する前に宿泊先のホテルにおいて、バスケス・ウルグアイ大統領と会談を行い、両国の間で外交問題になっているウルグアイでの製紙工場建設問題について話し合った。

両大統領は、ウルグアイ政府が、ENCE社（西資本）及びBOTNIA社（フィンランド資本）に対して、最大90日間の製紙工場建設の中断を求め、同時に、亜政府が、工場建設に反対し両国を結ぶ橋の封鎖を行っている亜環境市民団体等に対して、橋封鎖の解除を求めることで合意した。

(ロ) 21日14時より、同工場建設に反対して国境の橋梁を封鎖する強硬措置をとっていた亜のエントレリオス州グアレグアイチュ市の市民団体は、同工場建設中断を求める姿勢は変えないものの、同封鎖を解除した。また、23日0時より、同州コロンの市民団体は、同市とウルグアイのパイサンドゥ市を結ぶ国境の橋梁の封鎖を解除した。

(ハ) 26日にBOTNIA社が、28日にENCE社が、それぞれ最大90日間製紙工場建設を中断することを決定した。

(ニ) 28日夜、翌29日に予定されていたキルチネル大統領とバスケス大統領の首脳会談が、同会談で署名されることになっている共同文書の中身を詰めるために更に時間を要するとの理由により、延期されることが発表されたが、同首脳会談開催の時期は未定である。

(3) ボリビア

10日夜、キルチネル大統領は、チリにおいて、モラレス・ボリビア大統領と会談した。モラレス大統領は、キルチネル大統領に対し、9日、対ボリビア協力の一環として同国に派遣されていた亜軍人6名が飛行機の墜落事故により死亡したことについて、弔意を伝えた。

(4) ハイチ

(イ) 12-13日、亜政府の招待により、プレヴァル・ハイチ次期大統領が訪亜した。なお、同次期大統領の訪亜は、南米外遊の一環として行われたものであり、亜に先立ち、伯及びチリを訪問した。

(ロ) 13日、同次期大統領は、キルチネル大統領、タイアナ外相及びガレ国防相等とそれぞれ会談した。

(ハ) キルチネル大統領との会談において、同次期大統領は、国連ハイチ安定化ミッション（Minustah）への亜軍の参加等の亜の対ハイチ支援に謝意を述べた他、今後も継続して支援を望む旨述べた。

(5) 韓国

(イ) 14-16日、潘基文・韓国外交通商部長官（外相）が訪亜した。

(ロ) 15日、タイアナ外相は、潘長官と会談し、亜韓ハイレベル政策対話を行った。潘長官は、タイアナ外相に対し、キルチネル大統領を韓国へ招待する旨伝えた。韓国は、本年後半にキルチネル大統領が訪韓することを期待している。

(ハ) その他、訪亜中、潘長官は、シオリ副大統領、バレストリーニ下院議長と会談した。また、潘長官は、自身の次期国連事務総長立候補に対する支持を模索した。

(6) ペルー

(イ) 1-2日、ウマラ・ペルー大統領候補が訪亜した。

(ロ) 1日、キルチネル大統領は、大統領府にて、ウマラ大統領候補の表敬を受けた。同表敬は、ウマラ候補の要請を受け実現したものであり、亜側は、同表敬を受けたことにつき、政治的意味がないことを強調するため、アルベルト・フェルナンデス首相は、同会談は、儀礼的なものである旨説明した。

(ハ) ウマラ候補は、表敬後に開いた記者会見において、「キルチネル大統領からは、ペルー一国民に対する連帯と友好のメッセージを受けた」と述べた。

(7) オランダ

(イ) 3月30日-4月1日、ベアトリックス・オランダ女王が国賓として訪亜した（アレキサンダー皇太子、マキシマ皇太子妃（亜出身）、ボット外相等同行）。

(ロ) 30日、亜大統領府において、ベアトリックス女王は、皇太子、皇太子妃等と共に、キルチネル大統領及びクリスティーナ大統領夫人（上院議員）と約1時間に亘り会談した。

(ハ) 30日、タイアナ外相は、ベアトリックス女王の訪亜に同行したボット・オランダ外相と会談し、両外相は、二国間の政治・経済関係、ラ米及び欧州の全般的状況、メルコスール・EU間の貿易交渉、国際安全保障、5月にオーストリアで開催予定のEU・ラ米・カリブサミット等について話し合った。

(ニ) 31日、キルチネル大統領は、同女王からコロソ劇場におけるオランダ・バレエ団の鑑賞招待を受けたが、多忙を理由（地元サンタクルス州を訪問していた由）に欠席したため、オランダのマスコミ等は、キルチネル大統領が儀礼を欠いていると報じた。なお、同鑑賞には、クリスティーナ大統領夫人、シオリ副大統領、ガレ国防相、トマダ労働相、テレルマン・ブエノスアイレス市長等が出席した。

(8) チェコ

(イ) 4-7日、パロウベク・チェコ首相が訪亜した。

(ロ) 6日、タイアナ外相は、パロウベク首相と会談した。会談において、タイアナ外相

は、亜とチェコが、国際平和と安全、人権に関する問題において多くを共有し、民主主義を共有する旨強調した。パロウベク首相は、タイアナ外相に対して、チェコへの訪問を招待した。

(9) 要人往来

(イ) 来訪

3月1-2日	ウマラ・ペルー大統領候補（キルチネル大統領との会談）
3月4-7日	パロウベク・チェコ首相（シオリ副大統領、タイアナ外相との会談）
3月12-13日	プレヴァル・ハイチ次期大統領（キルチネル大統領との会談等）
3月14-16日	潘基文・韓国外交通商部長官（タイアナ外相との会談等）
3月21-22日	バチェレ・チリ大統領（キルチネル大統領との会談等）
3月25日-4月1日	（国賓としての訪問は、3月30日-4月1日） ベアトリックス・オランダ女王（キルチネル大統領との会談等）
3月28-29日	マンデルソンEU貿易担当委員（ミセリ経済相との会談等）

(ロ) 往訪

3月1-5日	デビード公共事業相のベネズエラ訪問（メレンテス財務相との会談等）
3月7-8日	ゴンサレス・ガルシア厚生・環境相のボリビア訪問（モラレス大統領との会談）
3月10-11日	キルチネル大統領のチリ訪問（バチェレ大統領就任式出席）
3月27-28日	タイアナ外相の訪米（国連安保理出席）
3月29日	ガレ国防相のウルグアイ訪問（ベルッティ国防相との会談）